

Title	生徒数減少下での私立高等学校の生き残り戦略 - 私立高等学校の魅力ある生徒募集政策 -
Sub Title	
Author	加藤晃孝(Katou, Terutaka) 片岡一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1987
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1987年度経営学 第538号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001987-0538

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 加藤 晃 孝

主査 片岡 一郎

副査 太田 康信

所属ゼミナール 青井 倫一 研

青井 倫一

生徒数減少下での私立高等学校の生き残り戦略 — 私立高等学校の魅力ある生徒募集政策 —

本研究は、私立高等学校・仙台育英学園の宮城県市場における、生き残り戦略について論じたものである。私立高等学校は、全国的規模の市場の縮小化（衰退化）を目前にしている。第1章では、全国的規模にたった市場の縮小状態について概観した。第2章では、仙台育英学園の市場である宮城県における中学校卒業生の減少の具合いを検討した。あわせて、宮城県特有の公立高校偏重から私立高等学校が、その受け皿的存在になっていること。そして、公立高等学校のとった残りの市場が供給過剰になるため、将来採算われする学校が現れることを検討した。第3章では、宮城県の中学校卒業生の動きと題して、高等学校にどれだけの進学者がくる可能性があるかと、ニーズの分析を行った。また、仙台育英学園のとるべき評価基準と保有資源、ポジションを見た。第4章では、これらの要素から、仙台育英学園が市場の衰退化を前にして、形態と規模を模索した。結論としては、仙台育英学園が現在の規模が大きすぎることで、進学方面にも市場の流れから充実すること、保有資源として高偏差値の学生を入れるコースがあることなどから、規模を特化して完全縮小するのではなく、1600名程度の中規模校をつくることになった。そこで、いままでのコースをより充実させ、中規模校のデパート化を提言した。